

# 水稻情報

(第7号)

あおば農業協同組合  
各地区農業技術者協議会

- コシヒカリの調査ほの出穂期は近年並みの7月31日頃となりましたが、本年も出穂後の気温が高めに推移しているため、**登熟の進みが早まると**予想されます。
- ほ場ごとに籾の黄化状況を確認して、適期の刈取りに努めてください。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米などによる品質低下を防ぎましょう。



## 1. 刈取りまでの水管理

～間断かん水で最後まで稲の活力を維持しましょう!～

- (1) 刈取りの5～7日前までは「間断かん水」を行い、根に適度な水分を与えて、活力を維持しましょう。  
**※フェーン等の高温が予想される時は、事前に入水!**
- (2) クサネムやヒエなどの雑草は、籾に混ざらないように刈取りの前に必ず抜き取りましょう。



## 2. 適期刈取

～適期刈取で胴割米の発生を防止!～

- (1) 高温下での登熟となっているため、**籾の黄化率80%から刈取りを開始し、適期内に刈取りを終えましょう。**
- (2) 品種や作型ごとに黄化状況を見極めて、黄化の早いほ場から計画的に刈取りを始めましょう。特に枯上がりの早いほ場は、刈遅れによる胴割米の発生に注意しましょう。

表1 「コシヒカリ」の刈取開始時期の目安(登熟日数36~37日)

出穂期	7月29日頃	7月31日頃	8月4日頃
刈取開始(目安)	9月2日頃	9月5日頃	9月9日頃

※成熟期が高温の場合、刈取適期の期間が短くなるので、刈遅れに注意しましょう。  
※各地域の「刈取適期表示」(刈取始期を表示した表示札)を参考に刈取り時期を判断してください。

点線内の籾が黄化し始めたら、黄化率80%程度です。



(枝梗が9本程度の穂を3~4本調査)

## 3. 適正な乾燥で胴割米・過乾燥米の発生防止

～玄米水分は14.5~15.0%に仕上げよう!～

### 【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み、常温での通風循環を2~3時間程度行いましょう。
- (2) 適正な送風温度や、二段乾燥(籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする)により急激な乾燥を避け、**玄米水分を14.5~15.0%に均一に仕上げましょう。**
- (3) 籾水分が低い場合や、乾燥時の気温が高い場合などは、送風温度を機種基準より低くし、急激な乾燥を避けましょう。
- (4) 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。

⚠ 今年はお穂後の気温が非常に高いので、**胴割れしやすい米**になっています!!

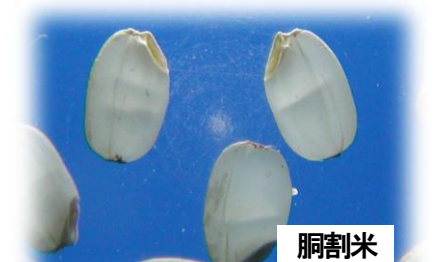
表2 青米の混入程度と乾燥機の停止水分の目安

100粒中の青米数	乾燥機の停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0~5粒	15.0~15.5%	乾く (-0.5%)
6~10粒	14.5~15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0~14.5%	もどる (+0.5%)

※玄米水分が17%を切ったら、手動水分計でこまめに測定しましょう。

### 【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2~3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょう。
- (2) 選別は1.9mmの篩目(つくばSD2号は1.85mm)を使用し、機種ごとの適正流量を守り、整粒歩合を高めましょう。



※精米すると砕けるため、米卸業者からは、軽微な胴割れも防ぐことが求められています!!

**事前点検でコンバイン事故などを防ぐとともに、秋も熱中症予防に取り組みましょう!!**  
**秋の農作業安全運動期間 8月20日~10月20日**

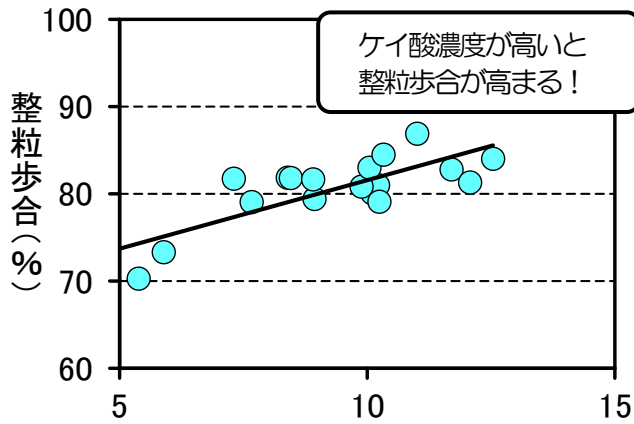
# 令和7年産米に向けて！ 美味しいあおば米は、まず土づくりから！！

管内の土壌中ケイ酸は不足しています！ 改善に向けて取り組みましょう。

## 1. 土づくり資材の施用

～地力向上のため、施用を継続しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材は毎年、適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌pHが低いとカドミウムが吸収されやすくなります。カドミウムの吸収を抑えるため、土壌pHは6.0～6.5を目標に施用を継続しましょう。
- (3) 籾殻、わらはは重要な土づくり資源です。絶対に燃やさず、すき込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

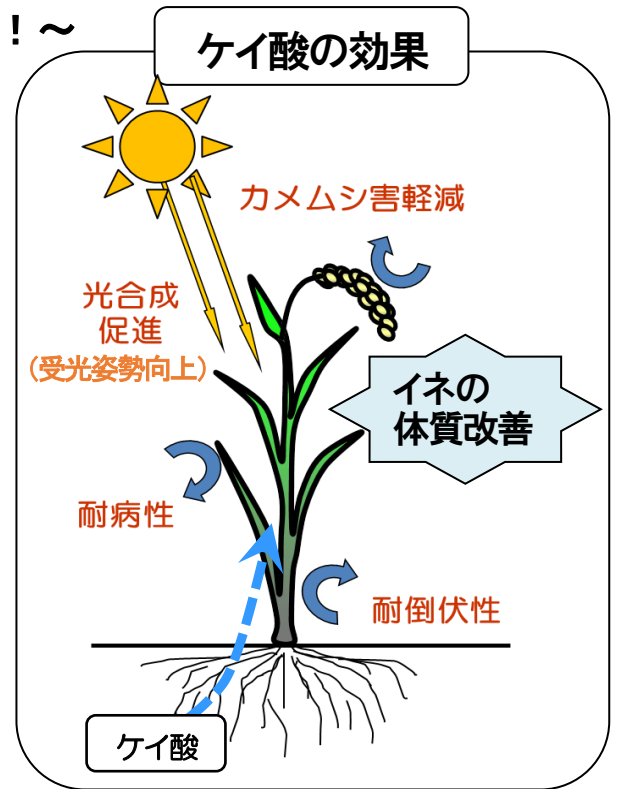


成熟期茎葉ケイ酸濃度(%)

図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

ケイ酸の施用により

- ① 高温条件でも品質が安定
- ② 倒伏に強くなる
- ③ 割れ籾の発生を抑え、カメムシによる被害が軽減される
- ④ いもち病などの被害が低減



### 【土壌改良（ケイ酸&アルカリ分）資材の施用の目安】

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分	ポイント
あおばフミンエース	100	ケイ酸22%、アルカリ分30%、鉄11.7%、苦土2.5%、腐植酸10%	ケイ酸や腐植を含む、各成分をバランスよく配合した、高性能土づくり資材。
スーパーケイサン+	90	ケイ酸40%、アルカリ分31.1% (分析値)	ケイ酸含有量が高く、pHも矯正。
シリカロマン	100	ケイ酸25%、アルカリ分45%、リン酸5%、鉄5%、苦土7%	ケイ酸、リン酸を補給、pH矯正効果が高い。
有機加里入 シリカロマン	100	ケイ酸20%、アルカリ分36%、リン酸5%、加里4%、鉄4%、苦土5%、有機20%	シリカロマン+ 有機質・く溶性カリ 穂肥のカリ・リン酸を秋・春先に省力散布。
鶏果良好	80~100	ケイ酸26.5%、アルカリ分26%、リン酸3%、加里5%、苦土1.5%、マンガン1%	遅効性のカリ成分が高く、中間追肥の省力化につながり経済的。
グリーンウェイブDX(ペレット)	90~120	ケイ酸31.2%、リン酸2.3%、加里2.9%、窒素2.3%、石灰13.6%、腐植21.5%、その他微量元素	ケイ酸、腐植、微量元素を一挙に施用でき、窒素を補給する事で、基肥の減肥が可能。

※詳細は、各地区営農経済センター・出張所へご相談ください。

## 2. 有機物の活用

～有機物の散布で「あおば米」の食味向上！！～

- (1) 牛ふん、豚ふん、籾殻堆肥や発酵鶏ふんの散布に努めましょう。
- (2) 堆肥が確保できない場合は、地力増進作物を作付け、すき込みし、腐植を増やしましょう。

### 【堆肥】(秋施用)

堆肥名	散布量(10a 当り)
牛ふん堆肥	1~2t
豚ふん堆肥	
籾殻堆肥	2t
発酵鶏ふん	75~105kg

### 【地力増進作物】(秋播き)

＜ヘアリーベッチ＞	
品種	晩生品種
播種時期	水稻刈取後～10月中旬
播種量	3~5kg/10a
すき込み時期	4~5月

転作(大豆、ニンジンなど)の前作におススメ！！



ヘアリーベッチのすき込み

富山県土づくりスローガン

いざ土づくり！  
美味しい富山を届けよう！

## 3. 作土深の確保

～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 秋耕後は排水溝(深さ20cm以上)を設置し、稲わらの腐熟を促進しましょう。
- (2) 春耕は、トラクターの作業速度を落として、作土深15cm程度を確保しましょう。

秋の土づくり運動

期間 9月15日～11月15日

